

# 隼人族の森を渡る風

第80回

彫刻家 上床 利秋

南砺市いなみ国際木彫刻キャンプを前にして

国際木彫刻キャンプの大会会場それぞれのテントに置かれている原材料の楠のサイズは事前に伝えられていたサイズよりも大きかった。直径60cmと聞いていたが、実際には90cmはあるようだ。

このくらい大きくなると70cmを超える巨大な幼虫から成虫に羽化することになる。という事は、以前制作したものよりも、少し大きいものになる。「モンスタースケイダー」と呼んでもおかしくないだろう。

大木の前に、いささか自分のイメージを本当に実現させることができるのかどうかという不安がよぎる。

自分の心を誤魔化すと必ず作品制作は失敗に終わる。謙虚に大木との語らいの時間を設けるべきなのだが、それがこの気持ちを「書く」ことで整理されれば良いと思っっている。

いよいよ明日から制作が始まる。

子どもの頃純粹に感じた羽化の驚きと命の尊さを巨大な木彫作品として表現できるのか否か。

「謙虚」に仕事することを心掛けることから、自分の戦いは始まる。

2023年8月18日 午前9時



大会参加者たちと。下段中央が筆者。9ヶ国13名の彫刻家と2グループが参加。



会場風景。井波芸術の森公園にて。



筆者ブースの原木。大会期間中の約10日間で作品を仕上げる。